

市議会定例会

平成25年第2回常陸大宮市議会定例会が、6月4日から20日まで開会されました。この定例会では、次の議案の審議が行われ、それぞれ可決、承認及び同意されました。

●市長提出議案

条 例

- 常陸大宮市税条例及び常陸大宮市国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 常陸大宮市職員の給与の臨時特例に関する条例
- 常陸大宮市特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例及び教育長の給与、勤務時間及びその他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

平成25年度補正予算

- 常陸大宮市一般会計・特別会計（3会計）補正予算

人 事 (敬称略)

- 固定資産評価審査委員会委員の選任について
佐野 絢子 (富岡)
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
木村 孝吉 (舟生)
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
諸澤 好一郎 (野口平)

専決処分の承認

- 常陸大宮市税条例及び常陸大宮市国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 平成24年度常陸大宮市一般会計補正予算

そ の 他

- 城北地方広域事務組合一般会計歳入歳出決算の認定について
- 市道路線の廃止について
- 市道路線の変更について



市職員給与の減額について

東日本大震災を契機として、防災・減災事業や一層の地域経済の活性化といった喫緊の課題に対応するため、7月から翌年3月までの間、市職員の給与を減額することになりました。

職種及び職務の級に応じて給料を2.65%、4.32%、5.44%減額するほか、管理職手当についても10%を減額するというものです。

また、常勤の特別職の副市長・教育長の給料についても減額することになりました。なお、市長については、以前から減額しています。

平成24年度城北地方広域事務組合 一般会計決算の報告について

平成25年3月31日で解散した城北地方広域事務組合の一般会計の決算が、第2回常陸大宮市議会定例会で認定されました。

歳入歳出決算の要領をお知らせします。

歳 入	歳 出	差引残額
623,408,476円	590,116,731円	33,291,745円

※差引残額については、城里町との負担割合に応じて配分されました。

赤ちゃんの駅が かがやきにもできました！

人目を気にすることなく授乳やおむつ替えができる「赤ちゃんの駅」が総合保健福祉センター（かがやき）の1階ホールに設置されました。



市内には、他に市役所本庁や山方総合支所、美和ふるさと館★北斗星（道の駅みわ）にもあります。ぜひご利用ください。

◀ベビーベッドや長椅子も設置されています

市民の方からの まちのできごと

小学生2人が初段合格

緒川空手道スポーツ少年団

指導者 坪 広太さん

団員である森島^{はるか}琉くん（大宮北小3年）と平賀綾人くん（城里町）が空手道昇段審査会で、初段に合格しました。指定形2つと分解組手、さらに3試合を行い、基準点をクリアして全日本空手道連盟及び糸東会公認の初段となりました。

2人は全国大会の常連として県内外の空手キッズから常にマークされる存在で、今年も東京や大阪で開かれる全国大会に出場予定です。

2人の活躍をきっかけに、団員全員のさらなる成長を期待しています。



▲左から平賀くん、森島くん

いっしょにまちづくり



茨城大学人文学部
社会科学科 3年
上地 紫苑さん

先輩たちの姿にあこがれて

現在私は、常陸大宮市の農業を介したまちづくりの活動・研究に携わっています。

私は、今まで畑作業の経験がなかったので、野菜を自分で育てて食べることを楽しんでます。自分で育てた野菜はとても美味しいということを見ました。

また、先輩方が畑作業などの様々な活動を通して住民の方と交流を深めているのを見て、私も住民の方に名前を覚えてもらえるくらい積極的に参加していきたいと思います。

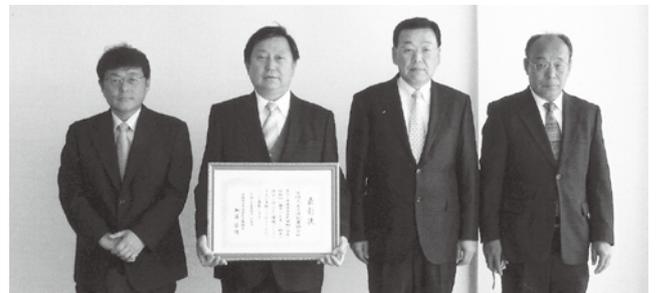
5月には田植えにも参加しました。生まれて初めての田植えを早乙女姿で行って、大変よい経験となりました。

常陸大宮市は自然が多く残っていて、住民の皆さんも優しく温かい方たちなので、もっと多くの方に訪れてもらい、その魅力を知ってもらいたいと考えています。私はそのお手伝いができたらと思っています。

環境保全県民会議で表彰

4月25日、環境保全県民会議でほう賞受賞者の表彰式が開催され、団体の部で常陸大宮市建設業協会が受賞しました。

同協会は、年2回の地域美化活動を実施しているほか、市との協定に基づき、災害応急活動に協力しています。今回、それらの活動が評価され受賞となりました。



▲左から森嶋さん、小林さん、瀧さん、阿久津さん

頭痛疫学調査を実施し、学会で受賞



常陸大宮済生会病院小児科の後藤昌英医師が調査した「茨城県常陸大宮市内の小中高校生における頭痛疫学調査」が「第102回茨城小児科学会」で「最優秀演題賞」、「第55回日本小児科神経学会学術集会」では「若手優秀ポスター賞」を受賞しました。また、後藤医師は、6月末にアメリカのボストンで開かれた「国際頭痛学会」においても、発表されました。

この調査は、今まで小児を対象とした大規模な頭痛の調査が少なく、その実態について不明な点が多いことから、昨年の秋に、市内の全小中高校生を対象に実施したものです。

小児の頭痛は、認知度が低いために怠惰や気のせいと片付けられ、訴えを軽視されている可能性があります。今後は、頭痛への正しい理解が学校・家庭などに求められます。